

## 今後の授業と補講について

今学期、正規の時間に授業が行われるのは、7月7日(本日)、14日、21日の3回です。

これに加え、2回分の補講を22日(水)に行なう方向で調整中ですが、現時点では未確定ですので、教務からの告知に注意しておいてください。補講の授業は、欠席をしても不利な扱いはしませんし、レポートの内容も、補講に参加しなくてもレポートが書けるような課題を出します。

## レポートについて

この科目の評価は、レポートの成績に、レスポンス・シートによる問題点の指摘などによるボーナス点を加味して評価します。出席点はありませんので、出席状況が芳ばしくないものであっても、レポートが優れていれば、単位が付与されることがあり得ますし、逆に、出席状況がよくても、レポートが貧弱であれば、単位が与えられないこともあり得ます。

以下に示す指示は、厳守してください。以下の指示に従わない場合、大幅に減点したり、レポート未提出として単位を付与しないことがあり得ます。

### レポートは

- ・ 必須レポート
- ・ 選択レポート
- ・ 選択レポートに関する感想

から成っています。選択レポートは、課題A～Cのうち1題を選びます。

レポートの表紙には、学生番号、氏名等とともに、選択レポート課題として選んだA～Cいずれかの記号を明記してください。

必須レポートの分量は概ね800字相当以上、選択レポートの分量は概ね3000字相当以上を期待しています。しかし、内容が充実していれば、これより少ない分量でも構いません。分量の上限は設けません。

さらに、選択レポート本体とは別に、選択レポートに関する感想を、概ね200字～400字程度にまとめてください。これは独立した課題です。

必須レポート、選択レポート、および、選択レポートに関する感想は、ワープロ等を利用して印字するか、インクで清書したものを提出してください。印字する場合は、A4判たて位置の白紙に印字してください。読みやすくなるようレイアウト等に配慮がされていることを前提に、一枚の用紙に印字する字数や、レイアウトは特に制限しません。手書きで清書する場合は、A4判横書きの400字詰原稿用紙を用いてください。

レポート本体と感想は、ステープラー、2穴式フォルダー、綴じ紐、等の適切な方法で「必須レポート→選択レポート→選択レポートに関する感想」の順に綴じて提出してください。

レポートの提出は、7月中の指定された日に、教務課で受付けます。提出受付日については、教務課から公表される情報を必ず確認してください。

なお、万一の事故に備えて、レポートのコピーを手元に控えておいてください。デジタル・データを保存しておくという形でもかまいません。レポート提出後、万一事故があった場合や、成績発表後に成績照会が必要になる場合などには、レポートの再提出を求めることがあります。そのような場合、手元に控えが残っていないと救済措置を受けられない可能性が高いものと理解してください。

万一の際に直接迅速に連絡が取れるように、自分の連絡先となるメール・アドレスを事前に通告しておきたい場合は、レポートの末尾（選択レポートに関する感想のページの最後）に、連絡を希望するメール・アドレスを書いておいてください。これは、任意であり、義務ではありません。

---

必須レポート：概ね800字相当以上：

授業を受講し、印象に残った点について感想を述べてください。特に、授業をきっかけに自分で考えた内容や、授業に対して感じた疑問については、できるだけ具体的に述べること。

---

選択レポート：概ね3000字相当以上：

(A)

まず、東谷護・編(2003)『ポピュラー音楽へのまなざし』勁草書房 所収の論文のうち、1つの章を選び、その執筆者が発表している音楽に関する論文や著作のリスト(書誌を明記した文献表)を作成してください。この部分は字数に入りませんが、必ず選択レポートの最初に置いてください。

その上で、その執筆者による2つ以上の論文や本(『ポピュラー音楽へのまなざし』所収論文を含めてよい)を関連付けながら、その執筆者が行っている研究について自由に論題を設定して自分なりの議論を展開しなさい。単なる研究の紹介ではなく、自分自身の考えを盛り込むこと。

ただし、『ポピュラー音楽へのまなざし』所収論文からの効果的な引用を1カ所以上、必ず織り込んでください。

(B)

ジャズの歴史に関する書籍を2冊以上読んで、それぞれを関連づけながら内容を紹介する書評を書いてください。ただし、取り上げる書籍は、スウィングからモダン・ジャズへの移行期についてまとまった記述があるものに限ります。(もっぱらモダン・ジャズ以降の時代だけを取り上げた書籍は対象に含まれません。)

念のためですが、単なる読書感想文を求めているのではありません。書評ですから、必ず、内容の要約と、自分の立場から見た意見、論評を盛り込んでください。また、取り上げた2冊の本をどう関連づけていくのかという観点をはっきりわかるようにしてください。もっとも望ましいのは、一つの共通テーマについて、2冊以上の書籍を比較しながら紹介するという形式です。

なお、レポートの最初に取り上げる書物の詳しい書誌を明記してください。

(C)

1960年(昭和35年)以前に生まれた人(複数でもよい)にインタビューして、ポピュラー音楽を中心に、その人がどんな音楽体験をしていたか、詳しく聞き取りをして報告してください。ここでいう音楽体験には、音楽を聞いたり、歌ったり、楽器を演奏したりといったことすべてを含みます。

その際、特に「ジャズ」については、どのように接する機会があったのか、何を聴いていた（演奏していた）のかなどを、特に詳しく話してもらうこと。

この課題を選ぶ場合、レポートの最初に、対象者の氏名、生年、報告者との関係、その他対象者の簡単なプロフィールと、インタビューを行なった日付、場所（複数回の場合はすべて）を明記してください。また、実際にインタビューをしたか確認するために、担当教員（山田）から連絡をとる可能性があることを対象者に告げ、許可を得た上で、対象者が都合のよい連絡手段（電話番号、メールアドレス、郵便送付先住所、のいずれか一つ以上）もレポートの最初に明記して下さい。（対象者から、山田に連絡先=個人情報=を知らせることに了解が得られない場合、この課題は選択できません。）

---

選択レポートに関する感想：概ね200字～400字程度：

課題A～Cの選択理由を説明した上で、レポートを書いた感想を述べてください。

---

以上、いずれのレポート・感想についても、引用・参考文献（ウェブページを含む）は書誌（URLなど）をきちんと記すこと。

引用範囲や出典を明示せずに他人の文章を切り貼りしてレポートに組み込むのは、盗用であり、剽窃行為です。このような行為が判明した場合は厳格な対応をとります。なお、この点については、**2003年度の音楽史B**のレポートについて述べた見解をご参照ください。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/ex-files/notice03.html#03AA>

---

レポートに関する質問は、「青山学院 音楽史A」という表題のメールにして、できるだけ早めに [yamada@tku.ac.jp](mailto:yamada@tku.ac.jp) まで送ってください。